

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0972300479		
法人名	医療法人木水会		
事業所名	グループホーム八州苑		
所在地	栃木県下都賀郡藤岡町太田1386-1 (電話) 0282-61-1181		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年9月3日	評価確定日	平成19年9月27日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤7人, 非常0人, 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容代 - 2,000円 ・おむつ代 - 150円/1枚 ・日用消耗品 - 150円/1日 ・教養娯楽費 - 100円/1日 ・光熱費 - 350円/1日 ・電気代 - 50円/1日/1点 	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,380円	

(4) 利用者の概要(平成19年8月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	7名		
要介護3	名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 88.4歳	最低	83歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小松原医院、石川歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、平成12年4月1日、県内で2番目に開設されたグループホームである。このため県内外から見学や実習などを受け入れることも多かった。ホームと同じ建物にはデイサービスセンター(区画は分かれている)があり、道路を挟んで同法人の老人保健施設、グループホームなどがあり、法人の敷地が医療福祉ゾーンを形成している。比較的近い位置に法人の医院があり、医療との連携体制が充実している。現在、法人として3事業所5ユニットのグループホームがあり、ホーム長会議などで情報交換し質の向上に努めている。職員は明るく、センター方式のアセスメントを実施するなど前向きに日々の支援に取り組んでいる。法人として託児ルームを設置し、働きやすい環境づくりにも力を入れている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>センター方式のアセスメントに取り組んでみたり、ふらつきへの対応としてセンサーマットを使用するなどの改善、工夫をしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、全職員が取り組み、最終的に管理者が取りまとめた。今回の外部評価実施後も職員で話し合いを持つ予定である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>現在のところ、運営推進会議のメンバーは入居者、ホームの管理者、計画作成担当者、法人内居宅介護支援事業所の介護支援専門員となっている。入居者からは食事や外食についての意見が出されている。法人の担当者が窓口となって町との連携を図っている。ボランティアサマースクールや小・中学校の体験学習などにも協力している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時に近況報告をするほか、入居者一人ひとりに担当職員がおり、家族に毎月手紙、写真を送付している。預かり金は出納帳で管理し、家族が訪問した際に確認していただいている。ホーム単独での広報誌は作成していないが、2ヶ月に1回発行される法人の広報誌にグループホームのページがあり、新採職員などの紹介ページも設けている。重要事項説明書にホームの苦情解決担当者を明記しており、ホーム玄関にも苦情解決担当者を明記したポスターを掲示している。利用料の請求にあわせて定期的にアンケートを送付している。家族との面談内容を記録に残す様式を使用して情報の共有に努めている。ご意見箱を置いている。今までに苦情等は寄せられていない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所の周りには、民家がほとんどなく、隣近所との日常的なつきあい、ということとは難しい立地であるが、地元の小学校、幼稚園、保育園との交流やボランティア、実習生の受け入れなどはしている。明確な区分けはされているが、ホームと同じ建物にデイサービスセンターを併設しており、旧友と親交される入居者もいる。法人全体で自治会に加入している。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者一人ひとりの人間性を重視します」「個人の生活歴を十分理解し、居心地のよい生活を営むことができるように支援します」「家庭的な雰囲気の中で生活することにより、安心と喜び、そして自信が持てるように支援します」「落ち着いた穏やかな環境を提供します」「住み慣れた地域での社会参加を積極的に支援します」を理念とし、その他に「ゆっくり、たのしく、いっしょに」を行動指針として定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念、行動指針等をホーム内に掲示し、朝夕の申し送り時や月1回のスタッフミーティング時に唱和するなどして共有を図り、その実践に努めている。また、法人で決めている「介護十戒」「話しかけ介護十則」の中から、毎月1つずつテーマを決めて、理念とあわせて唱和している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の周りには、民家がほとんどなく、隣近所との日常的なつきあい、ということは難しい立地であるが、地域の小学校、幼稚園、保育園との交流やボランティア、実習生の受け入れなどはしている。明確な区分けはされているが、ホームと同じ建物にデイサービスセンターを併設しており、旧友と親交される入居者もいる。法人全体で自治会に加入している。	○	今後、運営推進会議に自治会の方や民生委員などの地域の方に参加していただくことも検討しながら、当ホームならではの地域とのつきあい方を検討していくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	センター方式のアセスメントに取り組んだり、ふらつきへの対応としてセンサーマットを使用するなどの改善、工夫をしている。今回の自己評価は、全職員が取り組み、最終的に法人のグループホーム担当者が取りまとめた。今回の外部評価実施後も職員で話し合いを持つ予定である。	○	全職員での自己評価への取り組みを更に活かすためにも、自己評価での各職員間の違いを話し合うことにも期待したい。

グループホーム八州苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のところ、運営推進会議のメンバーは入居者、ホームの管理者、計画作成担当者、法人内居宅介護支援事業所の介護支援専門員となっている。入居者からは食事や外食についての意見が出されている。	○	今後、自治会の方や民生委員などの地域の代表の方や町、地域包括支援センター、入居者家族等の参画を求め、情報提供をしながら、更に幅広い意見、助言などを運営に活かしていくことに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の担当者が窓口となって町との連携を図っている。ボランティアサマースクールや小・中学校の体験学習などにも協力している。	○	運営推進会議に町にも参画していただき、グループホームの現状を伝えながら、より密接な連携を図っていくことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時に近況報告をするほか、入居者一人ひとりに担当職員がおり、家族に毎月手紙、写真を送付している。預かり金は出納帳で管理し、家族が訪問した際に確認していただいている。ホーム単独での広報誌は作成していないが、2ヶ月に1回発行される法人の広報誌にグループホームのページがあり、新採職員などの紹介ページも設けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情解決担当者を明記しており、ホーム玄関にも苦情解決担当者を明記したポスターを掲示している。利用料の請求にあわせて定期的にアンケートを送付している。家族との面談内容を記録に残す様式を使用して情報の共有に努めている。ご意見箱を置いている。今までに苦情等は寄せられていない。	○	今後、家族の運営推進会議への参加なども検討しながら、更に意見、要望などを言える場づくりを充実していくことに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人としては、職員のスキルアップや適正に応じた異動も考えているが、昨年度は1人の退職と、頻繁な交代という印象はない。法人独自の託児ルームがあり、働きやすい環境づくりにも力を入れている。担当制を取り入れていることもあり、職員が変わる場合には入居者の気持ちに配慮しながら引き継ぎをしている。		

グループホーム八州苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員用に理念なども盛り込んだオリエンテーションシートを作成して研修に活かしている。ホームでの勉強会のほか、法人で実施する研修にも参加できるようになっている。外部研修を受講した際には報告書を作成し、定例会などで伝達している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。当ホームのほかに隣地に2ユニット、隣町に2ユニットのホームがある。ホーム長会議でそれぞれの課題を話し合うなど質の向上に努めている。特に当ホームは県内で2番目に開設したこともあり、県内外からの見学・実習などを受け入れてきた。	○	グループホームの草分け的な立場を活かし、他法人のグループホームとのネットワークづくりを図っていくことにも期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みがあったときには、本人・家族にホームに来ていただき、建物や他の入居者・職員の様子を見ていただくようにしている。職員が訪問することもある。入居当初は、積極的に声をかけたり、入居者間との関係づくりを取り持ったり、家族に以前の生活の様子を尋ねるなどしながら、徐々に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることは見守りながら必要に応じてサポートしている。食後は、多くの方が自分で食器を下げた様子が見られた。年に3回ほど、入居者と職員が一緒になって、手打ちうどんを作っている。料理や畑仕事、裁縫など職員が入居者から教えていただくことも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が研修で学んできたことをきっかけに、センター方式のアセスメントにも取り組んでいる。思いや意向の表出が難しい方は、表情などから推し量ったり、家族から昔の話を聞くなどして、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が1～2名の入居者を担当しており、職員の気づきなどをスタッフメモに残したり、月1回の定例会で話し合ったりしている。家族面談表で家族との話し合いの様子も記録として残している。月1回の定例会や3ヶ月に1回のケアカンファレンスでそれらの情報を反映した計画作成をしている。	○	センター方式のアセスメントに取り組んでいることから、本人の思いや家族の意見を踏まえての、よりその人らしい生活を追及した計画づくりをしていくことに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月に1回のケアカンファレンスで介護計画の見直しを行い、同意をいただいている。また、モニタリング記録表ではホーム側の評価欄のほか入居者・家族による評価欄があり、確認を頂くようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今まで利用はないが短期利用共同生活介護の指定を受けている。また、医療連携体制加算の指定も受けている。敷地続きの老人保健施設での行事やバイキングに参加するなど、法人内他施設との連携も図っている。職員は、更なる個別の要望に応えた支援をしたいと考えている。		

グループホーム八州苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームから比較的近い距離に協力医療機関があり、職員の付き添いで2週間に1回の受診ができる体制になっている。本人・家族の希望でかかりつけ医で受診する場合には家族の対応になるが、受診前に状態を説明したり、受診結果を伺うなどしながら適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算の指定を受けており、看取りの指針を定めており、家族には個別に説明をしている。老人保健施設が隣接しており、また協力医療機関である法人の医院が比較的近くにあることから医療との連携体制は充実している。	○	これまで看取りの例はなく、また比較的身体的自立度の高い入居者が多いように見受けられ、「重度化・終末期」ということは連想しにくい現況であるように見受けられた。本人・家族の希望や思いを繰り返し確認しながら、職員間でも話し合いを続けていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	「介護十戒」「話しかけ介護十則」から毎月1項目を選んで朝夕の申し送り時に唱和するなど、一人ひとりの誇りやプライバシーを守る姿勢が徹底されている。情報の持ち出しを厳禁とするなど情報管理も徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の生活の流れはあるが、レクリエーション活動なども参加を無理強いすることはしていない。昼食も遅れて食べに来る方がいたり、入浴の時間帯も特に決めずに本人の希望の時間に支援するなど、一人ひとりのペースにそった支援に努めている。		

グループホーム八州苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	2日に1回の買い物、調理、準備、片付けなど、それぞれの入居者のできる範囲で職員と一緒にしている。入居者と職員が一緒になって、手打ちうどんづくりやおやつづくりなどもしている。入居者と一緒に作っている畑の野菜が食卓に並ぶこともある。隣接する老人保健施設で開催しているバイキング、週に1回の「居酒屋」にも参加している。職員は1名が一緒に同じものを食べていた。	○	理念に謳われている「家庭的」という観点から、職員も入居者と一緒に同じものを食べることの検討も期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は特に定めておらず、入居者の希望を聞き、見守りながら入浴の支援をしている。17:00ぐらいまでの午後の時間帯の入浴希望が多い。入浴を拒む方には声かけの仕方を工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、調理、畑仕事、針仕事など、本人のできることで、得意なことを踏まえて役割などの支援をしている。歌が好きな方が多く、天気の良い日には外で歌を歌うこともある。本の好きな方には図書館の利用なども支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩に出掛けたり、レクリエーションを外で行ったりしている。道路を挟んだ法人の老人保健施設の敷地の一角に畑を作っている。東屋があり腰掛けたり、日差しをよけられる配慮もしている。外出やドライブ、1日おきの買い物など外に出る機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの目の前に道路があり、不審者が出たことがあるということで家族に了解を得た上で、玄関に電子錠を掛けている。外出の希望がある場合にはその都度、錠を開けて対応している。天気の良い日にはなるべく外にできるように配慮している。	○	安全、安心を確保しながら、入居者のより自由な暮らしを支えていける方法を模索し続けていくことに期待したい。

グループホーム八州苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練を実施し、報告書を消防署に提出している。入居者も訓練に参加している。法人の事業所が隣接しており、火災などの際には応援が得られる体制がある。	○	法人としての災害時の応援体制等はできているが、地震等の広域的災害も想定して、地域の方の協力が得られたり、またホームの機能を地域の方が使っていただいたりといった連携体制の構築を検討していくことにも期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が献立を作成し、それに基づいて1日おきに食材を買っている。食事摂取量を記録し、水分の摂取量は必要時に記録している。月に1回体重測定をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設備や調度は家庭で使われるものが多く使われ、所々に花を飾り、また入居者の作品等を掲示したりしている。天窓からも明かりは入るが、日中でも照明を点けて暗くならないようにしている。浴室部分に配管からの臭気がやや上がってきたが、その他に気になる臭いや空気のよどみ等はなかった。食事の際にはテレビを消して、音楽を流していた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋によって備え付けのタンスがある部屋もあるが、家具等は使い慣れたものを持ってきて使っていただくようにしている。洋室に畳を敷いて、布団を敷くように使っている方もいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。